

1. 活動日時

2024年1月10日(水) 7:00~24:00(交代制で勤務)

2. 活動場所

珠洲市立 大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

3. 被害状況(NHK情報:1月10日14:00現在)

人的被害:石川県死者206人、安否不明者52人(10日16時現在)

住家被害:建物全壊1765棟、床上浸水6棟、床下浸水5棟(10日16時現在)

道路被害:穴水から珠洲、輪島に向かう道路は一方通行となった。

10日14時現在、輪島市、珠洲市、能登町の少なくとも22地区の3100人余りが道路遮断による孤立状態にある。

4. 天候

雨時々雪、最高気温6°C、最低気温0°C

5. 活動の実際

6:00 【珠洲市健康増進センター集合】

申し送り

前日の先遣隊による申し送り。本日より大谷小中学校(小中学校が同校舎)で対応。
災害対策本部と情報交換。8時と16時のミーティングはzoomにて行うことを共有。

8:00 【大谷小中学校への移動】

珠数市民体育館より自衛隊車両にて大谷小中学校へ移動。珠洲市中心街より大谷小中学校への経路は通常は3経路あるが、土砂崩れの影響で1経路のみしか使用できていない。その1経路で移動するが、道路の隆起や泥濘強く自衛隊車両でも移動は困難な状況。泥濘で立ち往生している車もあり。倒木や家屋の倒壊もあり、ほとんどの部分で一方通行。

8:35 【大谷小中学校で申し送り】

経緯説明(大谷小中学校避難所本部長)

避難所対応エリアとしては1000人が対象であり、震災直後の開設時は400人が収容された。1月10日現在は、237人が利用し、自宅避難も162人。各集落で避難している人も自衛隊車両で巡回しながら在宅避難の安全性、体調不良者の有無の確認を行っている。

千葉県より4人の市役所職員応援あり。1月9日より交代しながら本部応援を行っている。1月9日に仁江町内の崩落の疑いがあり、集落内の大部分の23人が入所した。移動前の避難所内に発熱者がいたことから、校舎の3階を開放し一時ゾーニングを実施。

食事などの対応では、炊き出しは10時・16時の2回。校舎併設の給食センターで調理し、温かい食事を配膳している。食器は清拭しているため、ゾーニング中の利用者には紙食器で対応し感染予防に努めている。

珠洲市総合中央病院より、処方などの対応が可能という連絡はあるが、病院までの移動が自衛隊車両以外では難しい為、定期的な医師の往診時に依頼・対応を行っている。1月9日に医師の往診あり、18名の受診や内服依頼があり。10日にも予定している。

8:55 申し送り（看護師）

珠洲市総合病院の地元看護師より申し送りあり。震災直後から本部にて活動を行っていた。看護師の自宅も損壊していることから、避難所で家族と寝泊まりしながら医療看護支援に従事していた。食事は確保されていたが表情からは疲れが見えた。

避難所は体育館を主に使用し、校舎の教室を要支援者室（ADLで介助が必要な方）、ペット同伴室を1階に配置、発熱者室を2階（トイレも専用）、他施設からの移動者を3階に配置。震災直後は400人に対応しており、受付で名簿記入はあるが、入退所や部屋などの情報の整理ができていない。

医師の診察希望や内服薬希望（被災により消失、定期処方薬の不足）の確認が対応しきれていない。また、入所者自ら訴える体調不良者には対応ができていないが、入所者全体には確認ができておらず、アセスメントまでは至っていない。

整容や更衣の希望がある入所者が多いが、入浴支援や下着やズボンなどの取り換えができていない。下着やズボンは物品自体もなく、オムツなどで対応は行っているがニーズを満たせていない状況がある。

排泄物は避難所内で統一指導し、凝固剤を使用しながら単回破棄をしている。嘔吐物とは別に対応し、感染予防に努めている。DVT予防のため、1日2回体操を実施。避難所内に作業療法士がおり、8日までは主体で実施していた。その後は本部・看護師で対応している。換気はCO₂メーターや湿度をみながら、少なくとも3回実施しているが、海沿いであり風も強く、気温の冷え込みもあるため積極的ではない。

以上を申し送り後、施設内を確認。支援物資は食料や飲水は十分にあり。生理用品やベビー用品も多数あるが、対象となる入所者は少ない。

9:30- 【大谷小中学校で支援】

本部の体育館と校舎の配置図がなかったため作成した。各部屋が既存の教室名となっており、わかりにくい状況であったため番号を割り当てた。入所者の入退室や、在室場所の把握ができていないため、データベース（氏名、年齢、性別、生年月日、既往歴、内服薬、普段のバイタル、ADL、家族構成）を作成し、部屋リストを作成した。データベースは要支援者や要配慮者を主に記録を開始したが、2部屋分しか記載できなかった。各部屋（体育館、校舎1階5部屋、2階4部屋、3階4部屋）の使用基準やゾーニング方法の調整や、食事の配膳方法（感染予防上、ゾーニングしているエリアは看護師が対応）を検討した。データベースの記載は11日をめどに必要な分は記載できるようにしていく。

内服薬について、珠洲市総合病院の受診歴がある場合は処方が可能との情報があるが、処方もらいにいく為の交通手段が確保できない。10日に内服薬希望での受診を予定していた入所者が複数いたが、悪天のためヘリコプター運航ができず医師派遣は中止となった。11日に2人の医師派遣がされているため、受診希望リスト（避難所内・避難所外）を作成し、各部屋に声をかけながら円滑な受診や内服処方につなげていく。

食事の配膳担当が各部屋の必要数や配膳方法（ゾーニング区域）が把握できていなかったため、調理師・配膳係と各部屋の入所者について情報を共有した。感染部屋などについては、接触予防も踏まえて10日以降どのように配膳していくか（なるべく部屋に入らない

ような方法)を確立していくことを共有した。

現在、体育館に173人在室している。土足環境であるが、布団で寝床を作成していることから改善が必要である。また、体育館内の寝床の配置もばらばらで、経路動線も悪い。更衣スペース等もない為、11日に配置変更について本部と共に調整を行っていく。

18:00 【夜間の先遣隊のシフト体制】

夜間の避難者の見守りを継続しつつ、先遣隊の確実な休息を得るためのシフトを作成した。休息場所は、診療室及び急変時対応に利用されている保健室を借りた。

休息時間 A：18:00～24:00 B：21:00～3:00 C：0:00～6:00

【夜間の状況】

要配慮者の定期的なおむつ交換、トイレ介助、トイレ物品の補充を実施した。

体育館では、静かに休んでいるが、絶えずトイレ移動があり、スリッパ履きは足音が館内に響いていた。

6. 考察

【避難所運営】 震災時より目まぐるしく変化する過酷な状況の中で、避難所本部(自主防災会、消防団、教職員、避難者内ボランティア)と看護師が共に避難者の生活環境改善の多重課題にとりくんでいた。その中で依然として、避難所入退者管理や教室利用者の等の管理ができていないことが把握できた。避難所本部を含めた役割分担の整理が必要である。避難所本部運営のリーダーも多重業務を行っており、本部を不在にすることが多い。派遣行政職員やボランティアスタッフが対応する業務が多いことから、統括に専念できるような環境調整が必要である。同時に、指揮命令システムを一度明確化していく必要がある。

【健康面】現時点で健康状態の悪化は顕著ではないが、今後定期内服ができないことや診察が行えないことで状態悪化することが予測される。円滑な受診行動につなげる必要がある。さらに、多くが後期高齢者であることから、生活環境の変化による認知症などの悪化、要介護による支援者の疲弊につながることも予測される。話を傾聴するだけでなく、DPAT・DWATなどの専門職チームにつなげていくことも喫緊の課題である。

【環境調整】避難者は、土足の出入り、床の上のふとん敷きによる呼吸器疾患の発症や、足音による睡眠障害等により健康障害が起きやすい状態である。段ボールベッドは持ち込めない状況があり、現在の体育館の動線やプライバシースペースの確保を行いながら、環境調整を行っていく必要がある。

7. 参考写真

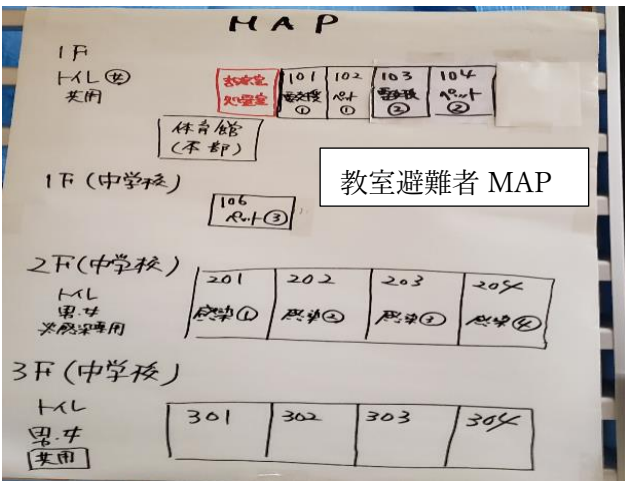




避難所(体育館)土足



看護班の本部



1日2回の体操